# 市民文芸

## 短歌

令和七年度第五十四回
阿南市春季短歌大会選　選

**入選**

雪解けの雫まとえる紅梅の数多のつぼみ朝陽に光る　佐坂　恵子

排尿の姑を支えて窓より見る白モクレンの雨に打たるる　金本ひろみ

**中学生短歌入賞者**

**一位**

眠たいな布団から出られずまた眠るこのひとときが幸せなんだ　福井中一年　高鶴　穹

**二位**

首元に祖母が編んだ手作りのマフラー大好きな色　新野中二年　岩崎　美羽

**三位**

あとわずか卒業していく三年生次はぼくらが引っぱっていく　福井中二年　新濵　郁弥

**入選**

陸上部かじかんだ手に雪ちらり寒風を切り懸命に走る　新野中一年　原田　暖希

青い空梅の香りに朝めざめ何かうれしいことがやってくる　新野中二年　池田　蒼牙

あの人にとどかなかったこの気持ちバレンタインのビターな記憶　新野中二年　佐々木愛華

霜柱どうどうとたつ誇らしさ目に見え感じる寒い朝の日　新野中二年　七條　大成

寒い中自転車をこぎ練習へ大変だけど勝ちたいために　福井中二年　白濵　昌平

## 俳句

第五十四回
阿南市文化祭誌上俳句大会　選

**市長賞**

東屋に石の円卓小鳥くる　東　弥生

**市議会議長賞**

初盆の供物に送る郷土菓子　西崎　鈴子

**市教育長賞**

ふんわりと敬老の日のバスタオル　喜來富士子

**俳連賞**

好き嫌ひ一応尋ね秋刀魚寿司　金本ひろみ

馴れし靴洗ひ出立秋遍路　鎌田　黄鳥

大根蒔く時計がわりの下校の子　岡久　玲子

離農する納屋は空っぽ秋の風　庄野　悦子

まり蹴りの子の靴跳ねて天高し　久米　千草

母が居て弟妹集ふ豊の秋　山田久美子

秋鯵の捌き始めはぜいごから　大西　裕子

余生とて日々新しき牽牛花　青木　慧

いわし雲突然トランペット鳴る　猪井　龍彦

山道は穴ぼこだらけ木の実落つ　野口　千代

減反のひと畑のみの煙草刈る　田中　栄子

稲刈や土間に小昼のハムサンド　東條　明宏

## 川柳

阿南川柳会　選

表札は亡夫のままにして独り　神野　鈴代

音楽でつながる絆世代こえ　佐藤つたえ

女子会でグチ聞かされる寿司の皿　鈴木レイ子

もういいよ進んでばかり疲れたわ　多田紀久代

あの時の出会いなければ遠い人　西田　修身

ローソクの炎のような恋もある　若木アヤ子

外見も中味も変わり帰省の子　渡邉ろまん

**一般応募**

生き延びて五年日記をまたも買う　島尾美津子

呆け防ぐつもりで笑顔多くする　泰地　重美

夢に見る母はやっぱり割烹着　武田　敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社　選

**新年雑感**

陽春盎盎物華新　池田　行子
野草育生驚動頻
尤好閑居身尚健
悠悠自適愛花人

陽春　盎々　物華新に
野草の育生　驚動頻なり
尤も好し閑居　身尚健なるを
悠々自適　花を愛する人

**新年述懐**

加五杖朝年此新　荒瀬左知子
菲才自愛一閑人
雖貧陋屋梅花信
無恙豫生了淨因

杖朝に五を加えて年此に新まる
菲才　自から愛す一閑人
貧なりと雖ども陋屋　梅花の信
恙無きの予生　淨因を了せん

**生日作**

自笑明年躋古稀　山川　治
時臻退職抱琴歸
目標不掲任流轉
世事如雲忘是非

自ラ笑ウ明年　古稀ニ躋ルヲ
時臻リ職ヲ退キ琴ヲ抱イテ帰ラン
目標　掲ゲズ流転ニ任ス
世事ハ雲ノ如ク是非ヲ忘レル